



あ つみ
安積 むつみ



こうめいとうぎいんだん
公明党議員団

コロナ自宅療養者へ生活支援の考えは

問 感染拡大の中、津市においても自宅待機・自宅療養者が増えている。感染者等は保健所（県）の管轄だが、さまざまな不安の声もある。親族等からの支援が困難な方へ、市として生活支援の体制が必要ではないか。また、自宅療養中の急変を食い止めるためにも、災害級の感染拡大だからこそ県と連携を取り柔軟に津市にしかできない取り組みをする時ではないか。

県の要請があれば一端を担うべきと考える

答 昨今の感染症の拡大から、自宅療養者が増加している中で、県は、自宅療養者に対し、健康状態や症状の変化を迅速に把握するために、症状の重さにかかわらず全員にパルスオキシメーターを配送し、保健所から電話等による毎日の健康観察を行うとともに、聞き取り調査により毎日の食事が困る人には配食サービスが利用できるようにしている。

市としても、不安に過ごしている方がいることは十分に認識しており、県の要請に基づいて、生活支援の物資配送等の応援要請があれば、保健所等と調整し、その一端を担うべきと考える。

●その他の質疑・質問●

○新型コロナウイルス感染症対策について

- 妊婦への優先接種について
 - 若者の接種について
 - 自宅待機・療養者の児童生徒の学びの確保について
 - ゴミ出し支援について
- 企業と連携し公共施設トイレでの生理用品無償サービスを
- 児童・生徒等の心のケアについて
- など



▲アプリ起動で生理用品が無料で出るディスペンサー



おか
岡 幸男



けんとう
県都クラブ

将来を見据えた保育園の運営は

問 津市の幼児教育・保育はどうあるべきか。

全国的に、出生数、0～5才児人口は減少しており、津市でも急激な減少率となっている。

将来、失敗施策とならないよう、全国他市の先例を参考に、民間運営の比率アップ、公設民営、公立・私立間の人事交流、人材派遣等について検討すべき時期ではないのか。

私立の施設整備を進める

答 津市における保育定員は、平成27年度から令和3年度までに、公立で96人、私立で530人増やしており、私立の施設整備を進めている。

今後も、民間が参入できる地域は民間で施設整備や管理運営を行っていただき、民間が参入できない地域は公立でしっかり取り組んでいく姿勢である。

また、私立の施設整備に当たっては支援を行っているが、人材不足のため保育士の派遣や人事交流は考えていない。

しかし、人材確保については、津私立保育園協議会と共催で行う保育士資格のある方の職場復帰セミナーの開催など、今後も連携して取り組んでいく。

●その他の質疑・質問●

- 乳幼児人口の推移について
- 待機児童問題について
- 高茶屋地区の乳幼児の人口推移について
- 高茶屋地区の子ども園構想について
- 児童発達支援の福祉サービスについて



▲減少を続ける津市と高茶屋地区の0～5才児人口